寄り添う

理事長　川 越 瑞 枝

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

宮崎では紅葉がすっかりずれてしまって、暮れの挨拶まわりがてらに紅葉が楽しめたというお話を聞き、四季の変わり目も温暖化に揺すぶられているんだなぁと申し訳ない気持ちになりました。温暖化に加担している一人として、いい加減だなと思う事もあったし、「ある、ある」の心当たりに、「みんなもそうだし・・・」と甘んじてきた事は否めません。次世代への負の遺産を増やしてはいけないと改めて思い直したところです。

エデンの園に「ユースエール」の認定証が九州では３番目、宮崎県では初めて贈られるということで、初年度は施設に来て頂いて認定証を頂きましたが、昨年は子育て支援の取り組みがすばらしい［クルミン賞」とあわせての授与式が行なわれ、労働局に出向きました。職員が安心して健康に生活することで、質の高い利用者支援につながるものと考えています。

言い古されてきた言葉ですが、ひとえに［福祉は人」によってその質が左右されてしまいます。「みんな違ってみんないい」と一人１人の個性は尊重されていますが、様々な違った障がいを持ち、また重なっていて、社会でも、家族とでも一緒には生きにくくなった障がい者は、施設での専門職の支援に委ねられています。エデンの園でもその特性にあわせて環境を変えてみたり、たえず利用者の生きづらさや、困りごとに寄り添った支援を心がけておりますが、何よりも、利用者自身が、いつも、持っている生きづらさや、やりづらさと自分なりに戦い、頑張っていることを十分に分かった上での寄り添う姿勢が大切だと実感しているところです。それでも、どうしたらいいか分からなくなってしまうと、不適応行動や、自傷、他害をしてしまうかもしれませんが、矛先を、どこに、どうして向けていいか、納め方も分からなくなる時もありますが、多様な工夫と実践を模索しながら寄り添えていけたらと思います。利用者の困りごとの本質や生きづらさは、寄り添う事なしには見えてきませんし、改善へのＰ･Ｄ･Ｃ･Ａは試行錯誤の連続になるかも知れませんが、利用者と共に改善の糸口が見えて来たときは、支援者としてのやりがいと達成感が味わえるのではないでしょうか。

創立から４０周年を迎えようとしている「エデンの園」の創設の母体となった「重複障がい者と共に生きる会」の活動理念を思い返しながら、利用者のＱＯＬを高めて行くのにどうすればいいのか思い巡らしてみました。施設に託された重い障がいを持っておられる方々の生きにくさを負い合う「寄り添う支援」は、可能性の模索、社会参加も可能にしていく歩みを確かにしてくれるのでは思っております。

ゴスペルコンサート

生活支援員　五島　千恵子

「きみは愛されるためうまれた。きみの生涯は愛で満ちている…」
美しいメロディ…12月17日、韓国のプロの歌手男性２名と女性１名の３名の方が日本の宣教のため、特別にチームを組んで来日されました。３年目の今年は熊本の被災地に行かれ、宮崎、そしてエデンの園に寄ってくださったそうです。

シンガー３名のキラキラした歌声と姿。韓国語、英語、日本語…。国境を越えて、神様の愛のメッセージがメロディにのって私たちの胸に響きました。「自分を飾らなくていいんだよ。ありのままののきみを愛しているよ。」とエデンの園の風ホールに集った私たち一人一人に語りかけられたような思いがしました。愛で満ちた温かく楽しいコンサート！一足早いクリスマスプレゼントでした。

南国のクリスマス会

生活支援員　光森　勇人

今年もエデンの園のビックイベントの一つであるクリスマス会のシーズンがやってきました。今年は『南国のクリスマス』というコンセプトの下、秋口から準備に取り掛かり、会場設営から式典内容まで思考を凝らしました。礼拝は清水町教会の原田牧師がクリスマスについて分かりやすくメッセージしてくださいました。祝会ではゲストとして『ミケとその仲間たち』と『三名保育園』の園児をお招きし、コーラスや楽器演奏、ダンス披露など発表して頂きました。また、職員による出し物では『南の国にサンタがやってきた!!』というオリジナルのストーリーによる劇が披露され、利用者の方々はこの日一番の盛り上がりを見せていました。会食では、富士産業さんがコンセプトにあったクリスマスメニューを提供して頂き、利用者からは「おいしい♪」との称賛の御言葉を頂きました。雪が降らないここ宮崎でも本場に負けない“南国のクリスマス”を楽しんで頂けたのではないでしょうか。

三名保育園の
園児発表

南の国にサンタ
がやってきた!!

サンタさんから
プレゼント♪

ミケとその
仲間たち

クリスマス会はスーツでオシャレに!!

楽器を使って演奏に参加♪